



きほんの講座 ①－1

定員 50 名

## ◆カレッジデビュー講座

**主 題** まなびのコース1年生向けのおすすめ講座です。伝統芸能、健康、音楽など…それぞれの分野で活躍されている方を講師にお迎えし、オムニバス形式でお届けします。これまで苦手意識を持っていたり、触れるチャンスがなかった分野に接する良い機会です。ご自身の新たな一面を発見してみませんか？

※【第2回】2025年度前期聖路加大学連携講座「見つけよう！自分に合った健康法～腸のこと～」第2回と内容が一部重複します。あらかじめご了承ください。

※【第4回】企画協力： 公益財団法人メトロ文化財団

講座番号 ①－1

時 間：午後6時30分～8時

場 所：築地社会教育会館

回 数：5回

受講料：1,500円

| 回数  | 日程       | 講義内容                      | 講師名      |
|-----|----------|---------------------------|----------|
| 第1回 | 9/19（金）  | 伝統芸能のチカラ～発声法から学ぶ健康づくり～    | 常磐津 和英太夫 |
| 第2回 | 10/ 3（金） | おなかの健康～排便のメカニズム・トラブルや対処法～ | 縄 秀志     |
| 第3回 | 10/17（金） | 日本の音楽史とヤマハ                | 福澤 守     |
| 第4回 | 10/24（金） | 中央区と地下鉄                   | 久多羅木 吉治  |
| 第5回 | 11/14（金） | 私たちのカラダにかくされた進化の秘密        | 中山 一大    |

### 講 師 紹 介

#### 常磐津 和英太夫（ときわづ わえいだゆう）

歌舞伎研究家、常磐津節演奏家。歌舞伎興行・日本舞踊公演のタテ語りとしての演奏活動とともに歌舞伎研究に従事し、早稲田大学演劇博物館招聘研究員のほか、各所で教鞭をとっている。主著に『十代目松本幸四郎への軌跡』共著に『歌舞伎・日本舞踊名曲100選』など。その他、古典作品の復活及び創作作業にも携わり代表作に「幸希芝居遊」「絵本合法衝」がある。

#### 縄 秀志（なわ ひでし）

聖路加国際大学 名誉教授。群馬大学医療短期大学を卒業後、虎の門病院に入職。その後、兵庫県立看護大学、長野県看護大学で教育に従事しながら聖路加看護大学大学院で博士課程を修了した。「ああ、気持ちいい～」をモットーに看護ケアを追求し、最近は“気持ちよく出す”をテーマに、排便に関する研究や地域の人々への活動を展開している。

#### 福澤 守（ふくざわ まもる）

ヤマハ銀座店店長。1989年一橋大学商学部卒業後、ヤマハ㈱に入社。ヤマハ銀座店でピアノの外販を担当。その後、管楽器の営業やマーケティング担当として国内他、フランス・中国に駐在。中国駐在時、ブランディング業務も兼務。帰国後ブランドショップのプロジェクトに参加し2020年よりヤマハ銀座店に着任。ヤマハ銀座店をブランドショップ化し、音や音楽の興味の有無にかかわらず、幅広い方々に音楽や楽器の楽しさを伝えるための運営を中心に多岐に渡って活躍している。

#### 久多羅木 吉治（くたらぎ よしはる）

東亜建設工業㈱本社土木部門技術部長。技術士（建設部門・トンネル）。千葉工大土木工学科卒業。元・帝都高速度交通営団（現・東京メトロ）。地下鉄計画をはじめ、鉄道技術、交通計画、トンネル技術に携わる。メキシコシティで地下鉄網マスタープランの改定に従事。土木学会フェロー終身会員、日本鉄道技術協会、日本鉄道施設協会、日本技術士会、地盤工学会、日本トンネル技術協会等に所属。

#### 中山 一大（なかやま かずひろ）

東京大学大学院新領域創成科学研究科 先端生命科学専攻 准教授。東京大学大学院理学系研究科博士後期課程2004年修了。日本学術振興会特別研究員、東京大学21世紀COEプログラム特任研究員、自治医科大学医学部助教および講師を経て2017年より現職。専門は進化人類学、遺伝学など。



## ◆江戸の書籍文化～蔦屋重三郎とその時代

**主 題** 江戸時代中期から後期、書籍市場は大きく変化します。読者層が大きく変化するのです。蔦屋重三郎は時代の動きを敏感に捉えてそれに対応する天才的な能力のあった希有な本屋です。彼が時代の好尚を先取りして制作した出版物は、当時の人びとの文化を主導し、この時代の文化を象徴するものとなっています。本講座では、蔦屋重三郎の足取りから時代の風を読み取って、そしてその風の中で蔦屋重三郎が何を発想したのかということを考えてみます。

**講座番号** ①－2

**時 間**：午後2時～3時30分

**場 所**：築地社会教育会館

**回 数**：3回

**受講料**：900円

| 回数  | 日 程     | 講 義 内 容             | 講 師 名 |
|-----|---------|---------------------|-------|
| 第1回 | 9/15（月） | 吉原時代の蔦重と江戸時代中期の江戸   | 鈴木 俊幸 |
| 第2回 | 9/19（金） | 天明文化の中の蔦重、天明から寛政時代へ |       |
| 第3回 | 9/21（日） | 「寛政改革」と蔦重、新たな時代へ    |       |

### 講 師 紹 介

#### 鈴木 俊幸（すずき としゆき）

中央大学文学部教授。中央大学文学部、同大学大学院を経て現職。狂歌・戯作研究の一環として蔦屋重三郎の研究を始め、現在は江戸時代から明治時代前期までを対象として、書籍文化研究を広く（浅く）行っている。主著に『蔦屋重三郎』（若草書房）、後に増補し『新版 蔦屋重三郎』（平凡社）、『江戸の読書熱』『絵草紙屋 江戸の浮世絵ショップ』『江戸の本づくし 黄表紙で読む江戸の出版事情』『近世読者とそのゆくえー読書と書籍流通の近世・近代』（いずれも平凡社）、『蔦重出版書目』（青裳堂書店）、『書籍流通史料論 序説』『書籍文化史料論』（いずれも勉誠出版）、『信州の本屋と出版一江戸から明治へ』（高美書店）他多数。



# ◆江戸をみつめてみよう～商い人たちの活躍から～

**主 題** 徳川家康により戦乱の時代から平和な時代へ。現在の中央区の基盤ともいえる街づくりをして、中でも日本橋界限には伊勢、近江をはじめとして多くの商人たちが集まってきました。

商いについては勿論のこと、神仏を心の糧としていた商い人たち。そして渡された商いのバトンをいかに守って次へとつなぐことの重責さにも広げて参りまして、そこにある誰もの人としての人格、人徳とは？を考えます。

元禄時代など長谷川分家で日々刻まれた商い帳簿をお手にして頂きながらご参加下さる皆様のお考えとともに学びを進めて参りましょう。

## 講座番号 ①－③

時 間：午後2時～3時30分

場 所：築地社会教育会館

回 数：4回

受講料：1,200円

| 回数  | 日程       | 講 義 内 容                 | 講 師 名 |
|-----|----------|-------------------------|-------|
| 第1回 | 9/17（水）  | 「のれん」って？「のれんをくぐる」って？    | 長谷川 隆 |
| 第2回 | 10/ 1（水） | 初鯉は、丸？切り身？              |       |
| 第3回 | 10/ 8（水） | 江戸（中央区）の商人たち、そして蔦屋重三郎と？ |       |
| 第4回 | 10/22（水） | 伊勢商人の末裔が、近江商人家で丁稚奉公？    |       |

## 講 師 紹 介

### 長谷川 隆（はせがわ たかし）

長谷川南家末裔《1635年（寛永12年）松阪から日本橋で創業》。学芸員。学習院大学卒業後、店掟により一族とはいえ、伊勢商人の末裔が、なんと！近江商人家にて行儀見習、丁稚奉公という、まずあり得ない貴重な機会から、お得意先、お取引先と、また多くの大変に著名な方々、着物ファッション・デザイナーの方々と通じて商いのこと、人と、心模様、機微を、単なる教科書的な歴史、曰くの話ばかりではなく（それはすでにA・I担当も）、3G（現場・現物・現実）に視点をおく。これまでも“ちょっと面白い、ためになる”講座として定評。専攻は、認知商入学。創建749年（天平21年）、松阪・清光寺（重要文化財・阿弥陀三尊を有する）研究員でもある。



「東都大伝馬街繁栄之図（国立国会図書館）」



## ◆街歩き楽しみ隊

(10/10、10/24、11/7、11/21を除く)

**主 題** 中央区を知り尽くしたまち案内のボランティアが、中央区の魅力をご紹介します。講義の回には、そのテーマを専門とした先生方にお話を伺い、その次の回には、講義に関連した地域のまち歩きを楽しみます。あなたもすっかり中央区通になること間違いなし！

企画・運営：中央区文化財サポーター協会

### 講座番号 ①－4

時 間：午後2時～4時

場 所：築地社会教育会館ほか

※第2回、4回、6回、8回はまち歩き

回 数：8回

受講料：2,400円

| 回数  | 日程        | 講 義 内 容                | 講 師 名           |
|-----|-----------|------------------------|-----------------|
| 第1回 | 10/ 3 (金) | 中央区と薦屋重三郎～べらぼうの世界を垣間見る | 増山 一成           |
| 第2回 | 10/10 (金) | 【まち歩き】東日本橋～日本橋         | 文化財サポーター        |
| 第3回 | 10/17 (金) | 水の都 中央区                | 陣内 秀信           |
| 第4回 | 10/24 (金) | 【まち歩き】蛸殻町・箱崎町・新川       | 文化財サポーター        |
| 第5回 | 10/31 (金) | 晴海のまちづくりについて           | 小笠原 友美<br>落合 秀行 |
| 第6回 | 11/ 7 (金) | 【まち歩き】晴海               | 文化財サポーター        |
| 第7回 | 11/14 (金) | 近代レトロ建築～日本橋・室町編～       | 松本 裕介           |
| 第8回 | 11/21 (金) | 【まち歩き】日本橋              | 文化財サポーター        |

### 講 師 紹 介

#### 増山 一成 (ましやま かずしげ)

中央区教育委員会事務局副参事（学芸員）。法政大学大学院社会科学部研究科修士課程修了。中央区を中心に国内外の歴史的・文化的遺産に関わる調査研究に従事。NHK財団ステラnet「べらぼうコラム」ほかでは、薦屋重三郎に関連して江戸の歴史・文化に関する案内や解説などにも協力している。著書は『みる・よむ・あるく東京の歴史』第5巻（共著、吉川弘文館）や『万国博覧会と人間の歴史』、『万博学』（共著、思文閣出版）など。

#### 陣内 秀信 (じんない ひでのぶ)

中央区立郷土資料館館長、法政大学名誉教授。東京大学大学院工学系研究科博士課程修了後、ヴェネツィア建築大学に留学。専門はイタリア建築史・都市史。地中海学会会長、都市史学会会長などを歴任。

#### 小笠原 友美 (おがさわら とみみ)

中央区まちづくり事業担当課長。再開発事業の推進や都市計画、オリンピック・パラリンピックに関する業務等に従事、2025年度から現職。地元との意見交換を重ねながら、良好なまちづくりの推進に取り組む。

#### 落合 秀行 (おちあい ひでゆき)

中央区都心再生推進課長。道路課長、交通課長を経て2024年度から現職。現在、区内の都市基盤整備とまちづくりとが連携するプロジェクトについての総合調整や施策の立案に従事し、都市の活性に取り組む。

#### 松本 裕介 (まつもと ゆうすけ)

建築史家。東京大学工学系研究科建築学専攻博士課程にて日本建築史を研究後、日建設などの設計事務所を経て、独立。住宅・医療施設などの設計を行っている。現在、都内各所で建築史講座の講師や歴史的建造物散策・史跡散策の会を主催している。著書に『東京建築百譚』『東京∞散歩』（いずれも東京木材市場）など。

#### 中央区文化財サポーター協会とは

中央区の養成講座修了生で構成されたまち歩きのボランティア団体で、歴史・文化・伝統ある中央区の史跡・旧跡・名所など、とっておきの見どころを楽しく、親切にご案内しています。





## ◆金原亭馬生の言葉遊び「雑俳」

**主 題** 江戸中期、蔦屋重三郎のような娯楽系出版社が活躍していた頃、庶民が夢中になった文芸活動の一つに雑俳（ざっぱい）があります。これは、松尾芭蕉が生み出した詩情のある「蕉風俳諧」とは異なり、川柳に多数のルールを付けたような言葉遊びです。イギリスにおけるウイトのように、日本ではとんち話や洒落など、機知に富んだ当意即妙な対話が人々の交流の潤滑油であったため、人々は雑俳を教養として嗜んでいました。

本講座では、雑俳についてご紹介いたします。江戸から続く、日本の豊かな言葉の魅力を楽しんでください。

※落語も実演いたします

## 講座番号 ①－5

時 間：午後2時～4時

場 所：築地社会教育会館

回 数：3回

受講料：900円

| 回数  | 日程       | 講義内容        | 講師名         |
|-----|----------|-------------|-------------|
| 第1回 | 10/15（水） | 雑俳の世界へようこそ  | 金原亭馬生       |
| 第2回 | 10/29（水） | 雑俳を作ってみましょう | 金原亭馬生       |
| 第3回 | 11/12（水） | 作品の発表（予定）   | 金原亭馬生・金原亭馬吉 |

## 講師紹介

## 十一代目 金原亭 馬生（きんげんていばしょう）

落語家、（一社）落語協会常任理事。1947年中央区銀座木挽町生まれ。1969年3月に十代目金原亭馬生に入門し、同年9月に小駒を名乗り人形町末廣にて初高座。1987年に真打へ昇進し、1999年9月で名跡・十一代目金原亭馬生を襲名。所属は落語協会。2014年より理事、2024年より現職。古典落語から新作落語、日本舞踊、俳句、小唄など幅広い芸域を持ち、芝居噺といった噺ができる数少ない噺家の一人。また、江戸時代から明治まで盛んに興行されていた噺家が演じるお芝居「鹿芝居」を現代に復活させた立役者である。



## 金原亭 馬吉（きんげんていうまきち）

落語家 二ツ目。2018年十一代目金原亭馬生門下へ入門する。2024年に二ツ目に昇格し現在に至る。歌舞音曲に優れており、端唄の名取は根岸禮駒。





## ◆文楽の世界を楽しむ

**主 題** 日本の伝統芸能で、ユネスコの無形文化遺産でもある文楽（人形浄瑠璃）について、その魅力を5回にわたり紹介します。

文楽の歴史から、義太夫、三味線、人形、演目の見どころポイントや物語の背景などを解説。庶民の芸能である文楽を初心者でも分かりやすいよう、こういった視点から鑑賞するかを中心にお話します。

第1～4回の講義では、イヤホンガイド解説者が映像や資料を使い、ぐっと身近に、わかりやすく楽しく文楽の世界へ誘います。また第4回には技芸員の方をお呼びし、お話を伺います。

第5回では、文楽公演を実際に鑑賞します。

鑑賞当日は、同時解説イヤホンガイドをご利用いただけます。(450 円・希望者のみ)

※はじめて受講される方が優先されます。

### 講座番号 ①－6

時 間：午後2時～4時

※第4回：午後2時～4時30分

※第5回：午後2時30分～5時15分予定

場 所：築地社会教育会館

※第5回は東京芸術劇場プレイハウスに  
現地集合・解散

回 数：5回

受講料：1,500円

観劇料：4,500円

| 回数  | 日程        | 講 義 内 容                                 | 講 師 名    |
|-----|-----------|-----------------------------------------|----------|
| 第1回 | 11/20 (木) | 文楽の歴史、約束事について                           | 佳山 泉     |
| 第2回 | 11/27 (木) | 文楽の三業～太夫・三味線・人形～                        |          |
| 第3回 | 12/ 4 (木) | 名作演目をズバリ解説！                             |          |
| 第4回 | 12/11 (木) | 技芸員の方のお話&観劇の演目見どころ解説                    | 技芸員・佳山 泉 |
| 第5回 | 12/18 (木) | 観劇 国立劇場 第57回文楽鑑賞教室<br>万才・解説 文楽の魅力・国性爺合戦 | —        |

### 講 師 紹 介

#### 佳山 泉 (かやま いすみ)

イヤホンガイド解説者。2007年～15年まで国立劇場文楽公演プログラムのあらすじを執筆。著書に『マンガでわかる文楽』（誠文堂新光社）、『ぶんらくの本』（共著、日本芸術文化振興会）。文楽巡業公演プログラム「文楽を覗いてみよう」コラム連載中。



「万才」劇中の1シーン

## ◆画廊へのご招待

**主 題** 中央区には多くの画廊があり、多種多様なアートを発信しています。この講座は、画廊に興味はあるけれど入りづらいと思っている方を対象に、ギャラリストによる様々な美術の楽しみ方のレクチャーと画廊めぐりを実施します。講座を通じて、画廊の魅力を体感していただきます。

企画・協力：銀座ギャラリーズ

## 講座番号 ①ー7

**時 間**：午後6時30分～8時

※第3回は午後2時～3時30分

**場 所**：築地社会教育会館ほか

※第3回は現地集合・現地解散

**回 数**：3回

**受講料**：900円

| 回数  | 日程      | 講義内容                      | 講師名                  |
|-----|---------|---------------------------|----------------------|
| 第1回 | 1/23（金） | 絵のある生活／谷川俊太郎さんとの思い出       | 後藤 眞理子               |
| 第2回 | 1/30（金） | 金沢の工芸文化を訪ねて<br>～加賀象嵌の美と技～ | 浜辺 佳奈<br>〈ゲスト〉前田 真知子 |
| 第3回 | 1/31（土） | 画廊めぐり                     | 原田 裕季子               |

## 講師紹介

## 後藤 眞理子（ごとう まりこ）

（株）ギャラリーゴトウ代表取締役。1998年版画家・野田哲也氏の新作品展で銀座にギャラリーゴトウを開廊。2016年より詩人・谷川俊太郎さん了承のもと、「谷川俊太郎の世界を描く」展を毎年開催。谷川俊太郎さんと画家たちの詩画集が講談社他から3冊出版される。著書に『絵のある生活 銀座ギャラリストからの提案』（アメージング出版）がある。

## 浜辺 佳奈（はまべ かな）

「KOGEI Art Gallery 銀座の金沢」ディレクター。石川県金沢市出身。2014年に金沢市が銀座に開設した「dining gallery 銀座の金沢」の立ち上げ時からディレクターを務めている。2024年3月の移転に伴い、新たに「KOGEI Art Gallery 銀座の金沢」として再出発。金沢ゆかりの作家による企画展を年間約33本開催し、東京から“金沢の工芸”の魅力と現在（いま）を発信している。

## 前田 真知子（まえだ まちこ）

金工作家。石川県金沢市出身。金沢美術工芸大学大学院彫金コース修了後、加賀象嵌の技術を用いて装身具などの制作を行う。現在は金沢市内の自宅工房を拠点に創作活動を展開しつつ、大学や専門塾などで後進の指導にも尽力。伝統技術を生かした生活に寄り添う作品づくりに取り組むとともに、体験型ワークショップを通じて金沢の金工文化の継承と活性化に貢献している。

## 原田 裕季子（はらだ ゆきこ）

相模屋美術店代表取締役。2015年より現職。相模屋美術店は、美術品を愛するお客様と作家の方々に支えられ、『真に美しいものは人と人とを繋ぐ』の創業者の理念のもと銀座・すすらん通りにて70余年営業してまいりました。美術業界において伝統と前衛の融合が叶いつつある今、美術品を自身の目で選び、そして購入することで、身近にしつらえる喜びを味わって頂きたいと、これからも世代を超えた逸品をご紹介すべく尽力いたします。

銀座ギャラリーズは、銀座1丁目～8丁目の画廊約40軒による任意団体です。画廊の仕事や美術作品の魅力を知っていただき、気軽に足を運んでもらえるように定期的にイベントを開催しています。春：画廊の夜会 冬：Xmasアートフェスタ  
銀座ギャラリーズが監修した初の書籍『26歳会社員、絵画を買ってみた』（WAVE出版）を2023年春に刊行。